

阿 蘇 山

火山活動度レベル

火山活動度レベルは、2 (やや活発な火山活動) でした。

概 況

中岳第一火口の湯だまりの量は、約 5 割から 14 日には約 4 割に減少し、湯だまりの色は、灰緑色から灰色に変色しています。7 日には湯だまり中央部で高さ約 5 m の土砂噴出を観測しました。湯だまりの温度は、70 以上の高い状態が続いています。

孤立型微動は、1 日あたり 31～142 回で消長を繰り返しています。B 型地震はやや多い状態で推移しました。

噴煙活動の状況

噴煙は白色・少量、噴煙高度の最高は 500m (1 月：600m) で、特に異常は認められませんでした(図 1、図 2)。

地震・微動活動の状況

継続時間の短い火山性微動は、期間中 4 回 (1 月：3 回) 発生しました。孤立型微動は 1 日あたり 31～142 回で、月合計は 1,740 回 (1 月：2,424 回) と消長を繰り返しています(図 1～3)。A 型地震の月合計は 103 回 (1 月：145 回) で、うち 43 個の地震の震源が求まり、多くは中岳第一火口付近のごく浅い所に分布しました(図 1、図 2、図 4)。B 型地震の月合計は 808 回 (1 月：811 回) と前月に引き続きやや多い状態でした(図 1、図 2)。

火口や噴気地帯の状況

中岳第一火口内で土砂噴出が、湯だまりの中央部や西側、分離した南西側部分で発生しており、7 日には高さ約 5 m の土砂噴出を湯だまりの中央部で観測しました。湯だまりの量は、1 月 21 日に約 5 割となり、2 月 14 日以降約 4 割に減少し、湯だまりは、本体と南西側部分とに分離しました(図 7)。また、湯だまりの色は、2 月 14 日に灰緑色から灰色に変色しているのを確認しました。噴湯現象は湯だまりの数箇所でき引き続き観測しています。

湯だまりの表面温度は 71～74 (最高 7 日) で、前月 (59～72) と比較するとやや温度が高くなっています(図 1)。南側火口壁下の温度は、14 日に 106 でした(図 1)。

(温度測定は、赤外放射温度計による)

地殻変動の状況

GPS による地殻変動観測では、草千里 - 砂千里浜、草千里 - 仙酔峡、砂千里浜 - 仙酔峡の各観測点間の基線長には、火山活動に起因する変化はありませんでした(図 5)。

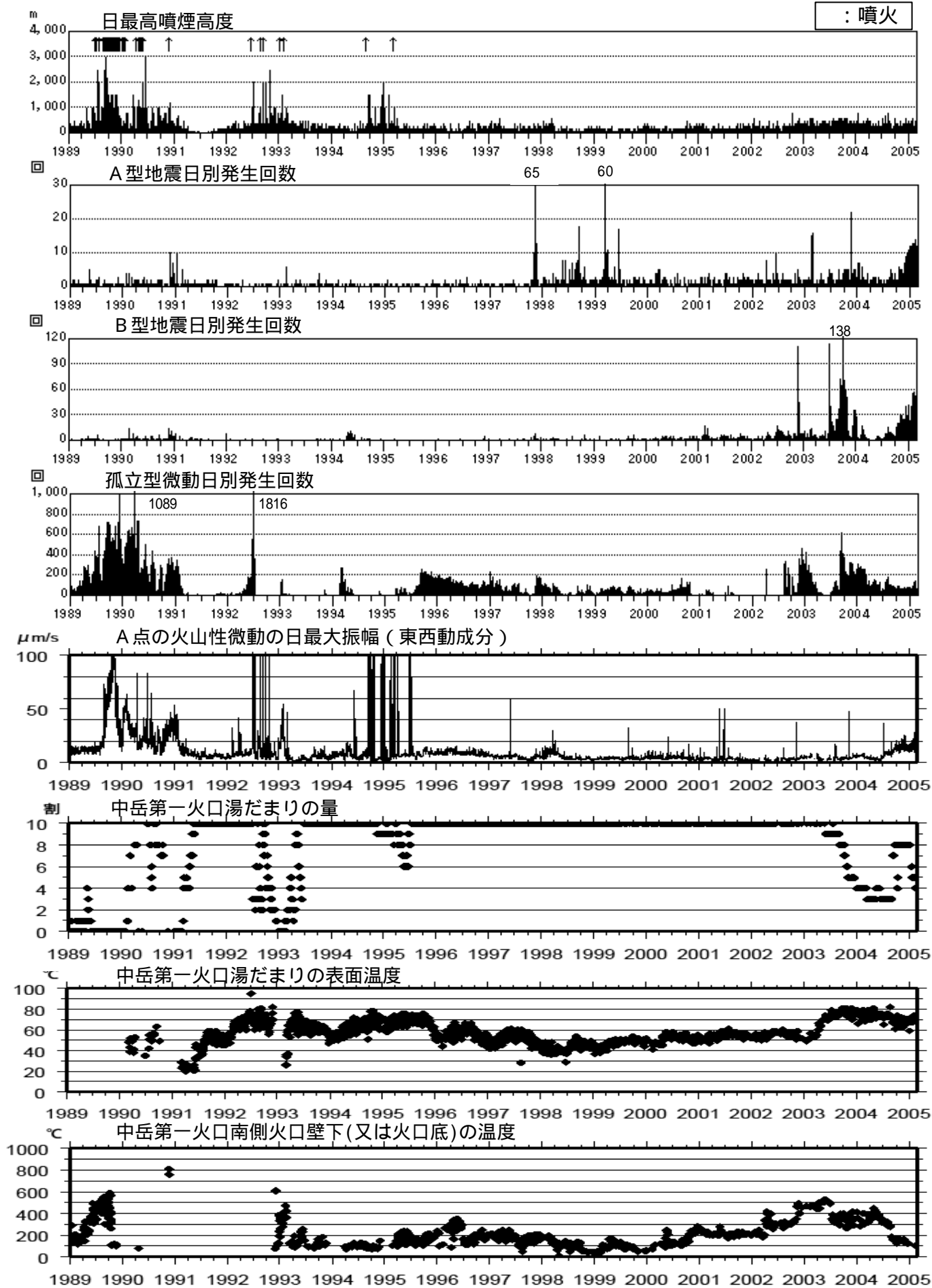


図1 火山活動経過図(1989年1月1日~2005年2月28日)

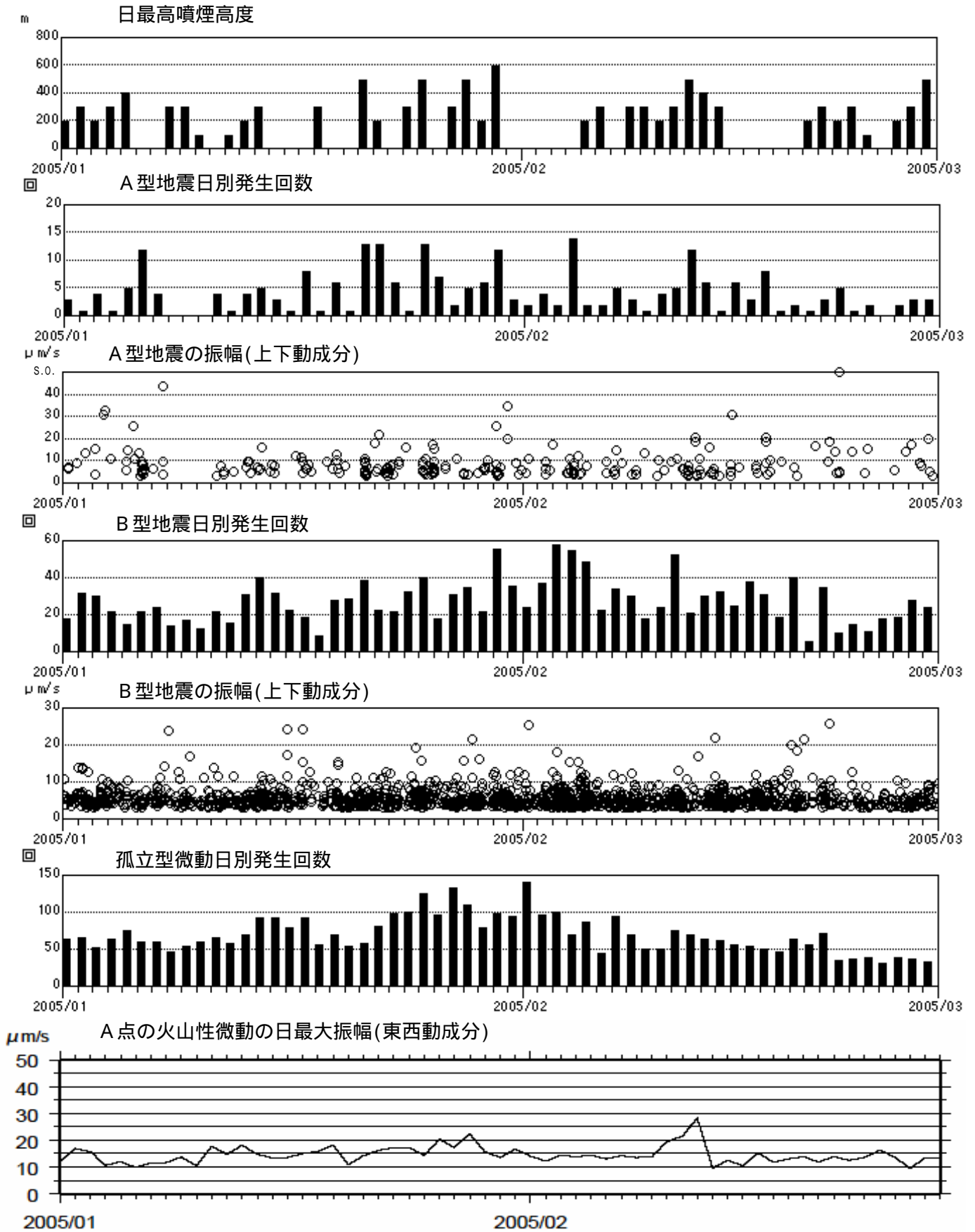


図2 火山活動経過図(2005年1月1日~2月28日)

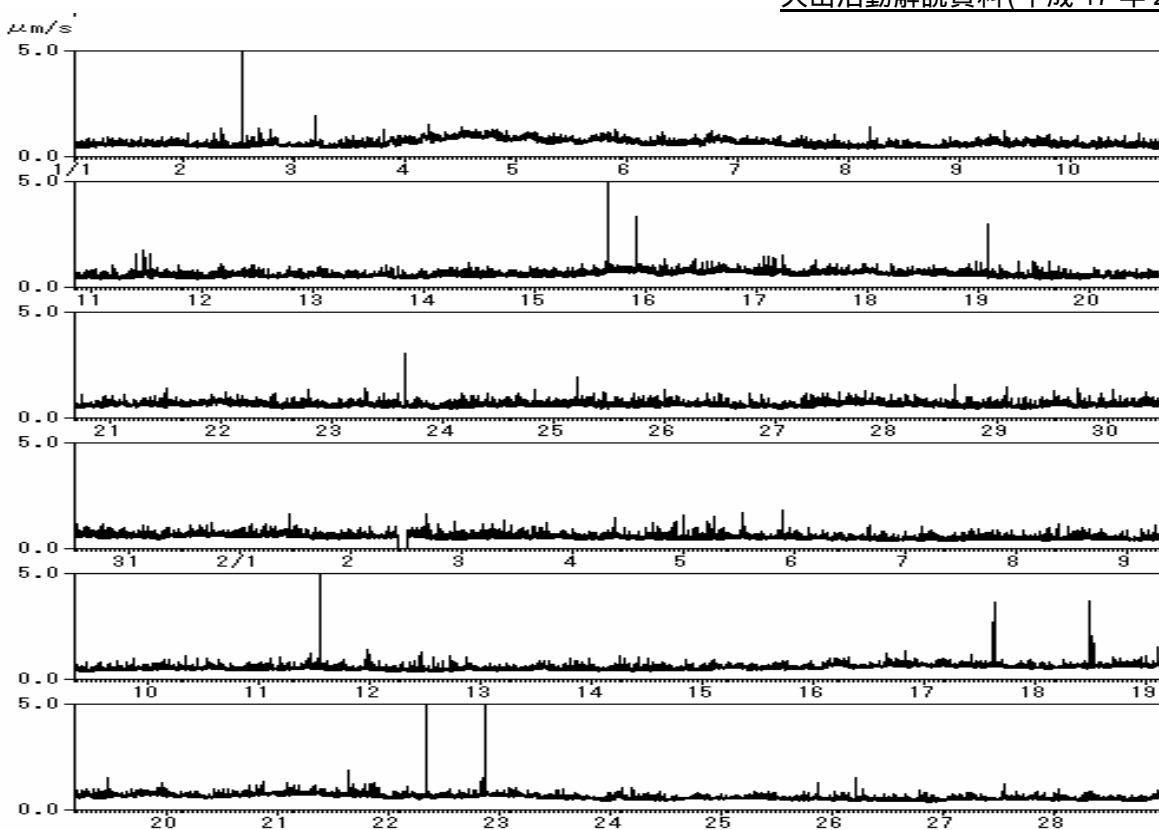


図3 1 分間平均振幅の時間変化 (A 点南北動成分) (2005 年 1 月 1 日 ~ 2 月 28 日)

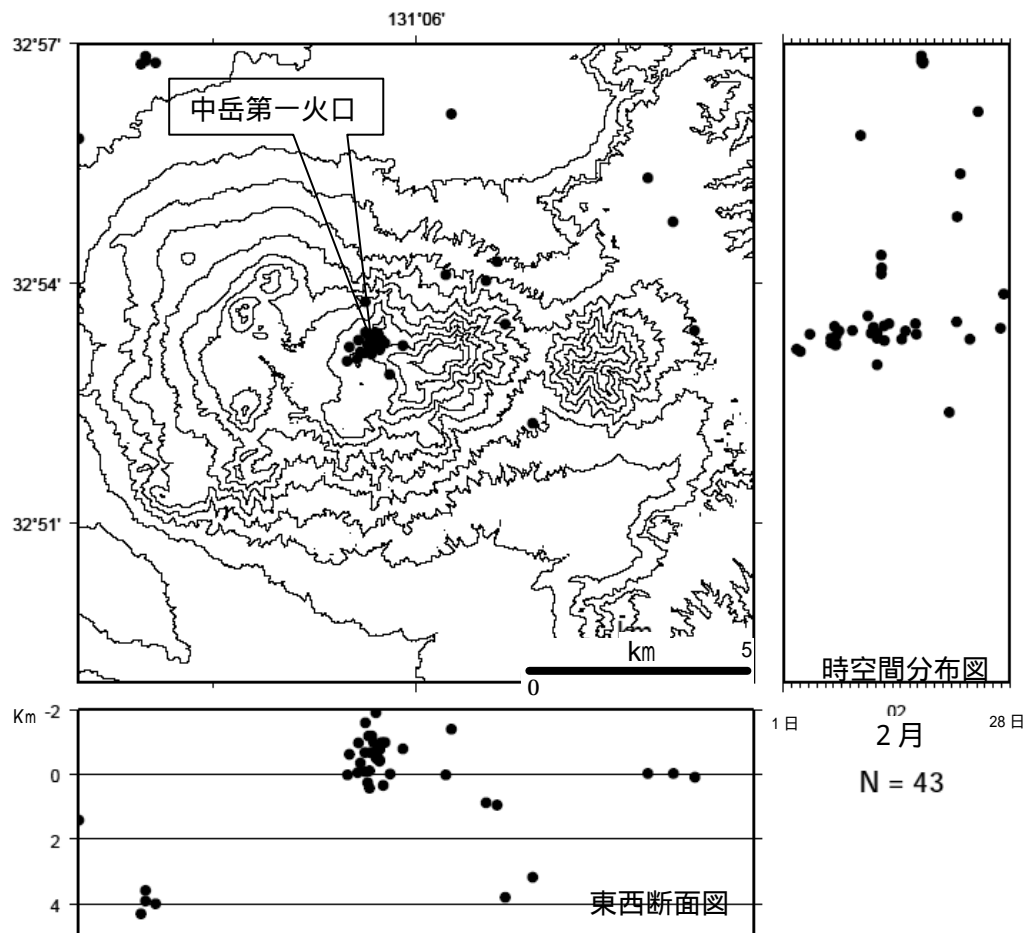


図4 火山性地震の震源分布図(2005 年 2 月 1 ~ 28 日)

本資料は、防災科学技術研究所、京都大学、気象庁のデータを用いて作成した。

阿蘇山

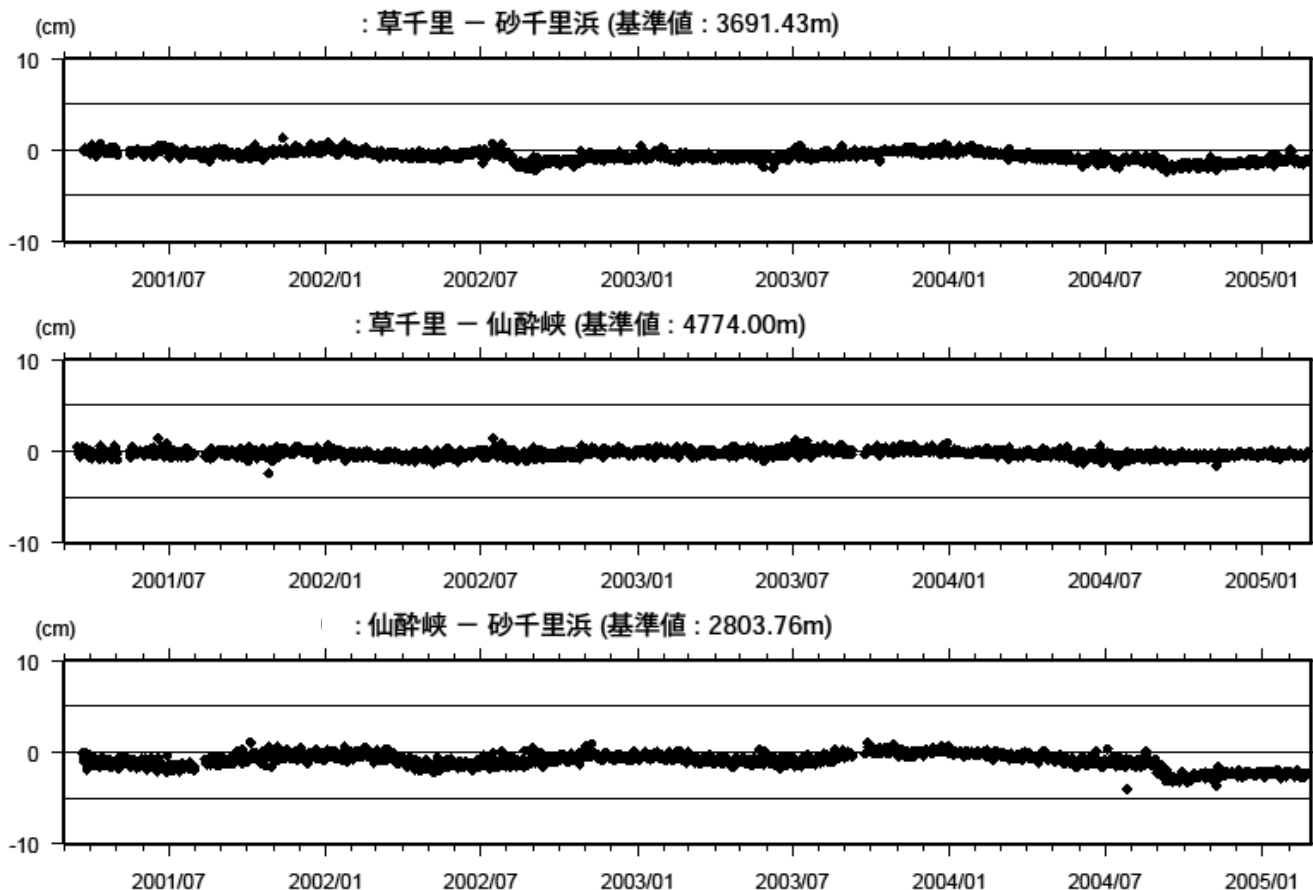


図5 GPS観測による基線長変化(2001年3月15日~2005年2月28日)

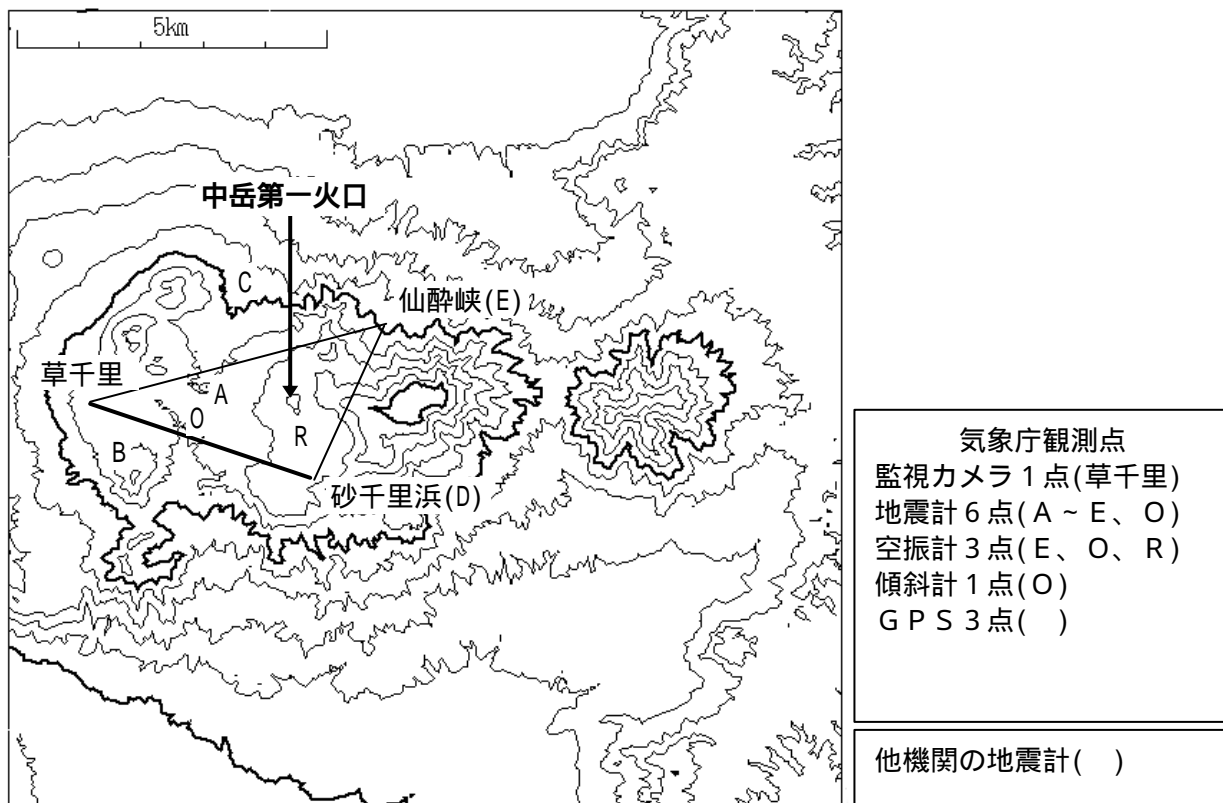


図6 観測点位置図



湯だまり本体

分離した南西側湯だまり

図7 湯だまりの状況(第一火口南西側から撮影：2005年2月14日)